



北口沙弥香 [著]



ヨベル新書 097

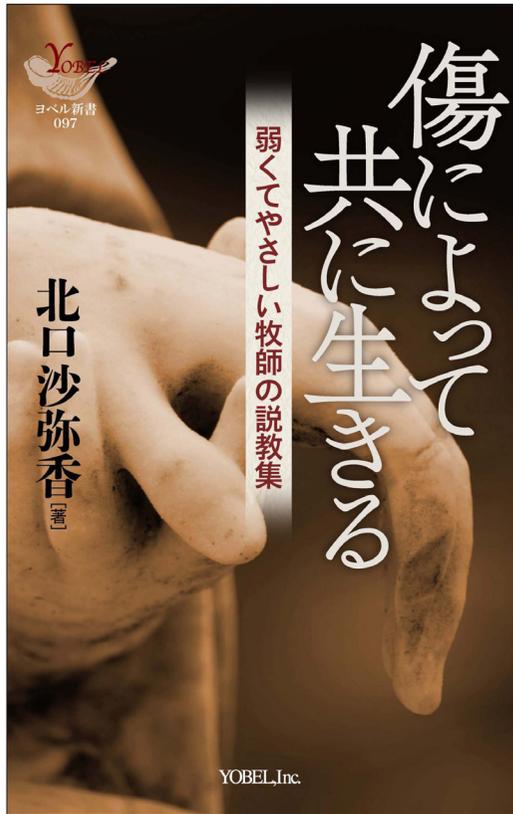
傷によって共に生きる

7月10日刊行予定

弱くてやさしい牧師の説教集

北口沙弥香 (きたぐち・さやか)

1984年北海道北見市生まれ。2003年札幌大学法学部法学科に入学。大学入学直後にキリスト教と出会い、大学4年の2006年イースターに日本キリスト教団 真駒内教会にて受洗。2007年大学卒業し、札幌の地で4年間フリーター生活を送る。2011年農村伝道神学校に入学、2015年卒業。卒業後、日本キリスト教団 なか伝道所に担任教師として赴任。同時に町田市の「重度訪問介護」（身体障がい者）の訪問介護事業所に就職し、牧師とヘルパーの二足のわらじの生活を始める。2018年日本キリスト教団 藤沢ペテル伝道所担任教師となる。同年6月日本キリスト教団 神奈川教区総会にて按手礼受領。2019年介護福祉士登録。2022年5月より日本キリスト教団 愛川伝道所主任担任教師就任。引き続き「牧師がヘルパーしている」実践を続けながら牧会に励んでいる。リベラル・クリスチャン情報局「イクトッス・ラボ」メンバー。① 愛川伝道所 ホームページ <https://aikawa.ykwebinf.net/> ② イクトッス・ラボ ホームページ <https://ixthus.jp>



不肖の“師匠”富田正樹、大いに推す！

さーやんの説教を読むと、さーやんがいかにか弱い者、不本意な生きづらさを抱えている者に寄り添おうとしているかがわかります。月みなな表現になりますが、さーやんは「優しい」です。その優しさで、これからも多くの人を癒やしてゆくのでしょうか。不肖な「師匠」である私のこともこれからも癒やしてください（笑）。

自分を何処に置くか、何処から見るかで まったく変わってくる福音書の風景！

自身の持っている傷、残り続ける傷によって互いに共感し、共に苦しみ、共に歩む。互いの傷によってわたしたちは響き合い、支え合い、愛し合うことができる。「セクシャル・マイノリティ」で「二足のわらじ稼業」の牧師による魂の説教集。

すいせんの言葉：
北口沙弥香さんと私 — 不肖の師匠より 富田 正樹

- 沈黙して救いを待ち望む（哀歌3章25～33節）
- 傷によって共に生きる（ヨハネによる福音書20章24～29節）
- マーゴイとしての牧者（マタイによる福音書2章1～12節）
- 神さまとケンカしてきました。（創世記32章23～32節）
- 行きたくないところへ（ヨハネによる福音書21章18節）
- 人は裁くことはできない（ヨハネによる福音書8章1～11節）
- キリスト教と自己犠牲（マルコによる福音書8章31～38節）
- 押しつけられた『ひとつ』からの解放（使徒言行録2章1～12節）
- 准允志願所信表明

- 喜びながら自分の道を歩く（使徒言行録8章26～40節）
- 目の前のその人に必要な奉仕（ルカによる福音書10章38～42節）
- それでも太陽は昇る（マラキ書3章20節）
- 教会が必要なくなるその日まで（エレミヤ書31章31～34節）
- 神の業が、この人に（ヨハネによる福音書9章1～12節）
- 天の国のための『宦官』（マタイによる福音書19章10～12節）
- 『沈黙』の父、ヨセフ（マタイによる福音書1章18～25節）
- 人は助け合うようにつくられた（創世記2章18～25節）
- 神の道義（イザヤ書58章6～8節）
- 記憶（マタイによる福音書1章1～17節）
- 悔い改めに必要な実を結べ（マタイによる福音書3章1～12節）
- 羊は神の声を聴く（ヨハネによる福音書10章22～33節）

新書判・244頁・定価 1,430円
1,300円 + 税 ISBN978-4-911054-21-5 C0216